

科学者委員会・男女共同参画分科会（第22期・第7回） 議事要旨

- 1 日 時 平成25年4月2日（火）17:30～19:30
2 場 所 日本学術会議事務局 第6－B会議室（6階）
3 出席者 江原由美子委員長、小舘香椎子副委員長、有信睦弘幹事、田畑泉幹事、
辻村みよ子委員、樋口美雄委員、太田喜久子委員、大隅典子委員、
新井民夫委員（計9名）

4 議 題

- (1) ワーキンググループからの報告について
(2) 学協会ヒアリング調査について
(3) 平成25年度男女共同参画分科会活動方針について
(4) その他、学術情報登録における複数（複合）姓使用の可能性について 等

【配付資料】

- | | |
|-----|---------------------------------------|
| 資料1 | 第6回議事要旨（案） |
| 資料2 | 協力学術研究団体に対する「試行的ヒアリング調査」について |
| 資料3 | 協力学術研究団体に対する「試行的ヒアリング調査」アンケート回収票（2団体） |
| 資料4 | 平成25年度男女共同参画分科会活動スケジュール（案） |
| 資料5 | 業績の検索システムに対する改良の申し入れについて |

5 概 要

議題1 ワーキンググループからの報告について（担当責任者からの報告後、意見交換）

・アンケートの分量・項目・送付方法・集計方法等について意見交換した。

・委員長より、大学に対するアンケート調査の内容についてコメントがあれば、事務局または、WG 責任者まで提出していただき、最終的に委員全員に対して確認のメールを出して固めることとしたいとの発言があった。

・シンポジウム、報告書に関して、報告があった。アンケート調査の結果を踏まえ、来年の6月までに報告書を作成し、提言を行う。シンポジウムについては、今年の秋から来年の3月までに行う予定とのことであった。

議題2 学協会ヒアリング調査について

・担当調査員から報告があった。ヒアリング調査実施までの過程、ヒアリング内容について説明。今後どのような団体に対してヒアリングを行っていくべきか、また、どのような項目についてヒアリングを実施すべきか意見をもらいたいとの発言があった。

・委員長より、この学協会ヒアリング調査をもとにして内閣府男女共同参画局からの審議依頼に対して回答するとの発言があった。

- ・理工系においては、２００２年学協会連絡会を立ち上げ、７０を超える学協会がシンポジウムや連絡会を実施しているとの発言があった。

- ・人文・社会系には今のところそのような連絡会はなく、男女共同参画の取り組みを行っている学会にヒアリングをするのが良いのではないかと発言があった。

- ・委員長より、男女共同参画の取り組みについて積極的な学会に対してさらにヒアリングを実施していくとの発言があった。

議題３ 平成 25 年度男女共同参画分科会活動方針について

- ・各大学に対するアンケート調査は、６月初めに実施し、６月末を提出締切とする。その後分析を行い、１０月総会時に本分科会を開催することとし、そこで分析結果について議論し、調査結果を基にした学術フォーラムの開催準備を進める。学術フォーラムは学協会連絡会との共催を検討する。学術フォーラムの開催を踏まえて、翌年６月までに報告書をまとめることとすることで確認した。

議題４ その他、学術情報登録における複数（複合）姓使用の可能性について

- ・委員長より、説明が行われ、それに関し、業績の検索システムに対する改良の申し入れについては当然なされるべきことであって、突破口としてデータベースから始めればよいのではないかと発言があった。

以上